

2024 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [高松中央高等学校] 担当教諭名 [岡田 ひとみ] (1年A組 13名)

相手国・地域 [ポーランド]

海外学校名 [VIII Prywatne Akademickie Liceum Ogólnokształcące W Krakowie] 担当教諭名 [Joanna Bajda]

■実施教科・時間数について教えてください。

| | 教科 | 単元名 | 時間数 |
|-------------------------|---------------|---|-----|
| アートマイルに関連した 実施教科・時間数 | 英語コミュニケーション I | Fighting Plastic Pollution You can make a difference | 45 |
| | | | |
| | | | |

■作品に込めた想いについて教えてください。

| 題 (テーマ) | 海と陸の豊かさを守ろう |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)</p> | <p>We, the students from two distant nations, Japan and Poland, are brought together by a shared goal and dream for a brighter, more sustainable future for our planet. Although our focus lies on different aspects of this vision, that is SDG14- protecting life below water, and SDG15- safeguarding life on land, we are united by the belief that humans and nature can live together harmoniously.</p> <p>In today's world, where environmental challenges transcend country borders, our collaboration is a symbolic power of unity. We are not just working for ourselves, and our countries - we are working for the future of every being on our planet.</p> <p>Our forests, mountains, wildlife, and oceans are essential for life on Earth but face serious threats due to deforestation, pollution, and unsustainable practices. Sustainable Development Goal14 ("Life Below Water") and 15 ("Life on Land") emphasize the urgent need to protect ecosystems, restore damaged environments, and ensure the survival of plants, animals, and humans.</p> <p>To create a better future, we must take collective action to restore forests, protect wildlife, reduce waste, and adopt sustainable practices. By speaking up, reducing pollution, and respecting local communities, we can ensure clean air, water, and thriving ecosystems.</p> <p>Protecting nature is not just about saving the environment—it is about securing a future where people and nature coexist in harmony. Together, we can leave a legacy of care and preservation, safeguarding our planet for generations to come. Let's act now to protect our Earth and build a sustainable future for all.</p> |



■今回の取組の成果と課題はどういった点でしょうか？

| 成 果 | 課 題 |
|--|---|
| <p>・瀬戸内海の環境問題について関心が高まり、豊かな海洋環境を保護するために、ごみの分別やマイバグの持参など、自分たちができることを取り組むようになった。</p> <p>・英語で自分の意見をわかりやすく伝えるために、必要な語彙や表現を調べ、写真や画像などをスライドにまとめ、伝えることができた。</p> | <p>・生徒は母国語であっても積極的に議論を展開する機会が少なく、表面的な同意にとどまりがちで、深い思考へと発展しにくい傾向がある。したがって、英語で海と陸の環境問題についてオンラインで議論した際に、適切な表現をとっさに使うことが難しく、議論が単純化されてしまった。</p> |

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

| 児童生徒の意識の変化 | 教師の意識の変化 |
|---|--|
| <p>ポーランドに対して関心のなかった生徒が、興味を持つようになった。環境問題に対する視点が広がり、「海のごみは日本だけの問題ではなく、国境を超えた協力が必要だ」と実感するようになった。また、ポイ捨てへの意識が異なる国もあることを知り、世界全体で環境保全の意識を高めることが根本的な解決につながると考えるようになった。</p> | <p>「世界とつながること」が生徒の学びや意識に与える影響の大きさを実感した。他国の教員との協働がもたらす新しい視点や方法に触れることができ、日本の教育の枠を越えた学びの可能性を再認識した。生徒たちには自ら問題を発見し解決していくような、より主体的で深い学びの機会を提供することが必要だと強く感じるようになった。</p> |

■主な活動の流れを教えてください。

| 場面 | 時期 | 活 動 内 容 | 児童生徒の反応 | 実施教科等 |
|---------------|---------------|--|--|-------|
| 調べ学習 テーマ学習 | 5月 ～ 9月 | <p>・SDGsゴール14について学習 バリのレジ袋廃止運動に関する教科書本文やTedスピーチ、YouTube、It took you approximately 1 week to eat this credit card.と書かれたポスターなどを使用し、内容を理解し、TAGAKI SDGsを使い身近な地域の環境問題やそれに対する自分の意見を英語で伝え合う活動をした。</p> <p>・調べ学習 各自でインターネットや新聞などを使い、個人・グループで調べ学習をして、ロイロノートでスライドを作り、クラス内で発表した。香川大学学生プロジェクトSteeepのご協力のもと、発表内容を改善し完成した。</p> <p>・ビーチクリーンアップ フィールドワークを通して、かがわ里海大学の講師から、瀬戸内海の環境について学んだ。</p> | <p>・環境保護に取り組むインドネシアの同年代の姉妹の記事を通じて、海洋環境問題の英語表現を学び、学生にもできることがあると実感した。「自分たちにも世界を変えられる」という意識が高まり、マイクロプラスチックの影響を知ること、他者への意識喚起の重要性を強く認識した。結果として、英語で積極的に意見を発信し合う姿勢が生まれた。</p> <p>・調べ学習を通じて情報収集の大切さを学び、スライド作成や発表を通じて伝える力を意識するようになった。大学生の協力を受け、発表内容がより分かりやすく改善され、自信を持って発表できたという声も多かった。他のグループの発表からも新たな視点を得て、学びを深める機会となった。</p> <p>・身近な海岸に予想以上のごみが落ちていることに驚き、町のごみが川や海へ流れ着く現実を知った。それをきっかけに、ごみの分別やペットボトルの使用を減らすなど、日常生活でごみを減らす意識が高まった。</p> | 英語24 |

| 場面 | 時期 | 活動内容 | 児童生徒の反応 | 実施教科等 |
|--------------------|---------------|---|--|-------|
| 調べ学習 テーマ学習 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ 「SATO-UMI・1000」という学習ツールを通して、話し合いながら里海について学び、理想の海について考えた。 ・工場見学 株式会社サンテックを訪問し、水処理のプロセスに必要な大型のパイプや各種の整備を製造している工場内を見学し、企業が実施している環境保全について学んだ。 ・議員との意見交換 瀬戸内海の環境保護について高松市が取り組んでいることや個人で参加できるボランティアについて学び、意見を交換した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通じて、里海の重要性や持続可能な海洋環境の在り方について考えた。理想の海について意見を出し合うことで、「海を守るために何ができるか」を主体的に考えるようになった。 ・企業が環境保全に取り組んでいる事例を知り、環境問題は個人だけでなく、企業や社会全体で取り組むべき課題であることを実感した。実際に大型パイプの製造工程を見学することで、水処理技術の重要性を理解し、技術が環境保護に貢献していることを学んだ。 ・市の環境保護への取り組みや、市民が参加できるボランティア活動について具体的に知ることができた。自分たちの意見を直接伝え、議員からの回答を聞くことで、環境問題が身近な課題であり、自分たちの行動が未来につながることを実感した。 | |
| 共有 相手と意見交換 | 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介、学校紹介用のスライドを制作し、オンラインでポーランドと交流 | <p>最初は英語が伝わるか不安で、相手が言っていることが正確に聴き取れなかったり、質問に素早く答えたりすることができなかった生徒もいたが、交流が進むうちに、自信を持ち始め、次第に積極的に参加するようになった。</p> | 英語3 |
| 融合 メッセージ作成 | 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでポーランドと交流 ・瀬戸内海歴史民俗資料館を訪問し、瀬戸内地方の漁業や海洋環境に対する認識を深めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の海洋環境についてスライドを作成し、英語で発表した。伝える難しさを感じつつも、ポーランドの学生が関心を持って聞いてくれたことで達成感を得た。 ・今と昔の漁業の違いを学び、環境変化が漁業に与える影響について考えた。 | 英語6 |
| 創造 壁画制作 | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・壁画のメッセージ決め ・壁画デザインの決定 ・壁画制作 ・折り紙で手裏剣と鶴を折る ・郵送作業 | <p>ウミガメがプラスチック袋をクラゲと誤って食べようとする姿、くちばしにカキの養殖用プラスチック製品が挟まった鳥、ごみ拾いに励む人々、海洋ごみを回収する大型機械など、これまで学んだ海の環境問題を壁画に描き、海の現状と保全の重要性を訴えた。</p> | 英語10 |
| 評価 振り返り 自己評価 | 1月 ～ 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りのポートフォリオ作成 ・ポーランド側の壁画を鑑賞 ・自己評価、他己評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、学んだことや感じたことをポートフォリオという形で記録に残した。 ・完成した壁画を写真で鑑賞して、ポーランドの生徒の作品と比較することで、異なる視点を学んだ。 ・自己評価と他己評価を通じて、自身の成長や課題を明確にし、今後の学習に活かす意識が高まった。 | 英語2 |

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

| 学習目標・つきたい力 | 評価 | 教師がそう感じた場面と理由 |
|---------------------------------|----|---|
| 異文化を理解する力 | 4 | ポーランドの生徒と交流する中で、海に囲まれている環境の日本とは異なる環境問題への取り組みや視点を学び、地域の課題についても新たな気づきを得ることができた。 |
| 主体的に考え行動する力 | 4 | 自ら環境問題を調査し、クラス内での発表やポーランドの生徒との意見交換を通じて、自分の考えを表現する力が向上した。また、ビーチクリーンアップなどの実践活動にも積極的に取り組む姿勢が見られた。 |
| 批判的に思考する力 (客観的・論理的視点) | 3 | 調べ学習を通じて、環境問題に関するデータや事例を分析する力が向上したが、より深い議論や多角的な視点で考察する機会を増やすことが今後の課題となった。 |
| 多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働) | 3 | オンライン交流では、最初は相手の発言を理解することや自分の考えを伝えることに不安があったが、回数を重ねるうちに徐々に積極的に発言するようになった。しかし、より深い議論を行うための英語力向上が今後の課題として挙げられる。 |
| 想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作) | 4 | 壁画制作では、視覚的な表現を通じて環境問題の重要性を伝えることに挑戦し、自分たちの学びを形にすることで達成感を得ることができた。ポーランドの生徒とも意見を交換しながら、共通のメッセージを作り上げる経験が貴重だった。 |